



## だれひとり取り残さない 地域共生社会の実現を目指して

さいたま市障害者協議会 第22回総会開催

令和7年5月20日 大宮ふれあい福祉センターにて



清水市長より、だれひとり取り残さない地域共生社会の実現を目指して、さいたま市が取組んでいる施策についてお話をいただきました。

今年度は渡辺副会長の辞任に伴い福迫新副会長が加わり、新体制でスタートいたしました。

障害者協議会の役割を改めて皆様と再確認し、一つ一つの事業を進めてまいりたいと思います。

皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

清水勇人市長をはじめ来賓の皆様をお迎えし、第二十二回総会が開催されました。





障害者用トイレ

災害時障害者支援用バンダナ  
さいたま市障害政策課出店ブース

# 令和7年度さいたま市総合防災訓練・防災フェア

令和7年9月1日(月) 荒川総合運動公園

第46回九都県市合同防災訓練

.....共助による初動訓練に参加しました.....



## 第四十六回九都県市 合同防災訓練

## 防災訓練に参加して

防災の日の9月一日、荒川総合運動公園にて大規模な九都県市合同防災訓練が行われました。この防災訓練はさいたま市だけでなく多くの都県市町村が関わっています。年に一回、持ち回りの都・県・政令市で行われます。

過去、さいたま市の防災訓練は二年続けて雨で中止を余儀なくされています。なので、皆さん期待が大きかったのではないかでしょうか。

当日は晴れて、非常に暑い日になりました。

私は、みつくすビートの仲間とハイエースで行きました。厳重な持ち物検査を受けて芝生の道なき道を車椅子で進みました。しばらくいくと協議会専用のテントがあり、そこに腰を落ち着けました。受付で持たされた荷物の中にはうちわとパンフレットと災害時障害者支援用バンダナが入っていました。このバンダナは協議会で何度も意見を出して、ようやく実現したものです。

避難誘導訓練に参加できたのは協議会からの参加メンバーの半数くらいでした。

どうか。災害場所を再現した会場を学生などと一緒に歩いていました。

避難誘導訓練に参加しない私たちひたすら暑いテントの中、建物が燃えているとかバケツリレーをしているとかを見物するしかありませんでした。暑さ対策として大型のミスト扇風機やフリードリンクが用意されていましたが、猛烈残暑には敵いませんでした。

ヘルコプターが何機も離陸を繰り返しながら砂ボコリを上げました。十一時頃、専用ヘリコプターで石破総理（当時）がやってきました。テントには大きなテレビモニターが置かれていて、訓練の様子や石破さんがヘリコプターから降りてくるのが見られました。

私が重要視していた災害用トイレ。特に障害者用トイレを見にいきました。想像していたより清潔でした。実際に使ってみると肢体不自由の私でも余裕で使えました。災害のときのトイレはいつも問題になっているので、進歩しているのだなと思いました。大きな防災訓練はいつも課題が残ります。もっと障害以外の人たちと交わり、助け合える経験になつて欲しいのですが、道なればです。

竹内 政治

九月一日、さいたま市総合防災訓練では、共助による初動対応訓練に参加しました。

緊急地震速報が終わって後に消防団や自治会の方々と避難をするという十分程度の体験でした。

私は、バンダナを首に巻き学生さんのガイドで避難という体験でしたけど、現実の災害時の避難であるなら、見えない状況でどれほど不安なものか、一歩足を踏み出すことも怖い状況の中、どのように安全に避難すべきなのかをイメージしながら学生さんに視覚障害者の誘導の仕方、周囲の状況説明の方法などを伝えるべきだったと今更ながら初動対応訓練の意味を考え直しました。

実際の災害時には、周囲も混乱し安心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

そして行政におかれでは、要支援者への安心できる対応を図っていただけ

心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

二ケーションの必要性を感じました。

実際の災害時には、周囲も混乱し安心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

二ケーションの必要性を感じました。

実際の災害時には、周囲も混乱し安心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

二ケーションの必要性を感じました。

実際の災害時には、周囲も混乱し安心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

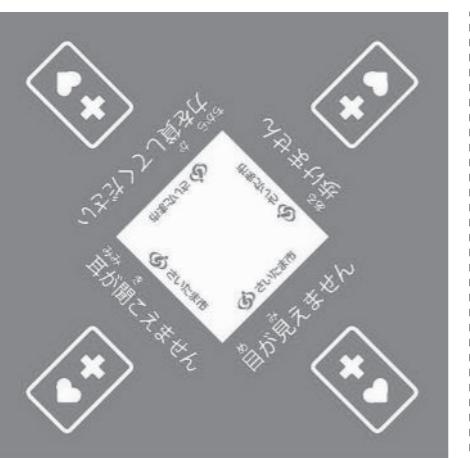
心して避難など難しいだろうなと考えると、日頃から地域の方々とのコミュニケーションの必要性を感じました。

二ケーションの必要性を感じました。

## 災害時障害者支援用バンダナ

障害のある人が、災害時に避難所等において、障害に合わせた支援を受けることができるようになります。周囲に自身の障害について伝えるツールとして作製しました。バンダナは90センチメートル×90センチメートルの正方形で、生地の裏側に向かって三つ折り、三つ巻縫いにしてあります。

表側には、4つの角を下にして、それぞれ、力を貸してください、歩けません、目が見えません、耳が聞こえません、と記載しております。（さいたま市HPより）



陸上自衛隊 液体散布車



金木 愛子  
さいたま市精神障害者家族会連絡会

私は、配慮者への理解精神障害のある方」という掲示板に目が留まりました。必要な配慮は、①穏やかな対応②わかりやすい言葉がけ③常用薬が不足したり、症状の悪化が見受けられる場合は、避難所を巡回する保健師に相談する。これらは、実に的確な説明だと感心しました。

東日本大震災の時には、障害がある人の死亡率は、ない人の二倍だったそうです。息子は、スマホを使いこなし、枕元に靴と笛を置いて寝ているそうですね。心配は私の方かもしれません。



## 新役員紹介

さいたま市障害者協議会副会長  
一般社団法人インクルラボ

福迫 かずや



今年度より、さいたま市障害者協議会の副会長を務めさせていただきます。

私は二十三年前に視覚障害を負い、現在はロービジョンとして生活しています。

私が今一番大切に考えているのは、障害の種別を超えて互いを理解し、横のつながりを広げていくことです。障害のある人が別の障害のある人を支え合い、共に生きていけるよう、コミュニケーション豊かで開かれたさいたま市になつてほしいと願っています。

「障害があつても自分らしく生きる」その思いを実現するためには、当事者自身が「待つ」だけでなく、自ら声を上げ、行動できる環境づくりが必要です。私もその一助となれるよう努めてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

## 福祉を考える特別授業

### 大谷口小学校で福祉授業を実施



六月十四日（土）さいたま市南区大谷口小学校体育館にて「学校開放」の取り組みの一環として、福祉をテーマにした授業が行われました。生徒やそのご家族、学校関係者など約二百名が参加しました。



右より 竹内副会長  
さいたま市社会福祉協議会  
南区事務所 木嶋氏  
福迫副会長

## 編集後記

二限目は、さいたま市障害者協議会の竹内政治副会長から「バリアフリーとは、そしてバリアフリーな生活について」の講話が行われました。

三限目は、一般社団法人インクルラボの福迫かずや氏が登壇し、「ノーマライゼーションやヘルプマーケ、視覚障害者の生活について紹介しました。また、「命の重さは誰にとっても平等であること」「はつきりと断る勇気」「自分らしく生きることの大切さ」などについても語りました。

参加者はそれぞれの話に真剣に耳を傾け、福祉や共生社会について考える貴重な時間となりました。

参加者からは「福祉をより身近に感じられた」「自分の生活を振り返るきっかけになった」などの声も寄せられました。（インクルラボ鳥山）

今年の夏は記録的な猛暑となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

厳しい暑さの中でも、朝夕の風にほんの少し秋の気配を感じるようになりますね。虫の音にもどこかホッとさせられますね。

今号では防災訓練を特集として取り上げました。

突然の災害に備えることはとても大切なことです。いざという時にどう動けばよいのか、不安を感じる方も多いのではないでしょうか。そんな時こそ、普段からのちょっととした準備や、まわりとのつながりが大きくなるのです。季節の変わり目、どうぞ体調にお気をつけて。（I）

さいたま市障害者協議会  
会報あ・うん第31号  
発行 さいたま市障害者協議会  
会長 中野 勇  
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会  
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1  
大宮ふれあい福祉センター4階  
TEL 048-653-7271  
FAX 048-653-7341  
<https://www.saitama-planet.com/>  
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。